

太陽のイメージ(I)——絵と絵本におけるくり返しの意味——

津守 房江

問題のとりえ

三人の女児の継続的な絵の資料に初めて出る太陽はY(2才5ヶ月)の作った二枚の切紙である。これは折紙の図案をYが切ったから自分で「おひゃあ」と命名したものである。出来る過程を見るとYは座って折紙とはさみを持ち、紙に直角にはさみを一回入れる。次に紙を少し動かして同じように切り、これをくり返して一まわりして出来たものである。(スライド) 2才5ヶ月の子どもが長時間はさみをくり返し動かし、紙を回転させて作った作品を「おひゃあ」と言ったことは、出来上がった形に対してではなく、くり返しと回転のイメージに対して「おひゃあ」と名付けたものと考え。この事は子どもの太陽のイメージをどうえるのに重要な点を示している。一般に太陽を円形に放射線又はそれに近い形で表わすことは、記号のように固定化したものである。しかし幼な子どもはどのように視覚的図形を持つ以前に生き生きとしたイメージを持つと考える。Yの二枚の切り紙から太陽のイメージの原初的なものの一つとして、くり返しと回転という運動的イメージをどうえることになった。

問題の展開

くり返しと回転は子どもの生活の中にしばしば見られる。又絵の中にも見られ、一般に錯画と言われる絵のぐるぐる渦巻や螺旋線はこれである。子どもの想像の世界にかかわる絵本においても、くり返しとイメージの回転がみられる。これらの絵本のイメージのあとをたどるホドグラフを作り、これが子どもの絵の中のくり返しと回転の線とどのような対照を見せるか又くり返しと回転が成長する子どもにとってどのような意味を持つか考えてみたい。

絵本におけるくり返し

一つの絵本をくり返し読むことではなく、ここでは絵本の中に同じような行動場面がくり返し出てくるもの即ち、くり返し話と言われるものについて考

える。現在読まれている絵本の中かうこれをあげると、「三びきのやぎのがらがらどん」「おくろ」「大きなかぶ」「あたしとあそんで」「おかあさんだよりすき」「のり」「たろうのともだち」「まりーちゃんとひつじ」「こぶたのここと」「三つの五人のきょうだい」等数多くある。これらの作品につき、物語の展開に従い、①くり返しにより起るイメージの変化②くり返しの速度③イメージの上昇を考え、それぞれホドグラフを作った。作品により異なったホドグラフを持つがその中から全く違ったタイプの三つをあげる。(表)

「あたしとあそんで」では曲線で示される期待と軽い失望のくり返しから、早い速度のくり返しになり螺旋的に上昇する。「三びきのやぎのがらがらどん」ははじめから直線の即ち意を保持して行動を起し、障害に合ひ下降し、このくり返しのジグザグ線がかわりに強い飛躍的上昇へと向う。「こぶたのここと」は、はじめて家を出た子豚が道を三回まわって家に帰るまでの三つの重なった円のくり返しである。これに対して、イメージのホドグラフに相当する錯画がみられる。(スライド)

絵と絵本におけるくり返しの意味

絵本におけるくり返しの多くは、イメージの上昇となり、無理なく一つ事をなしとげ、満足感と成長感とにつながることを知った。子どもの錯画と言われる、ぐるぐる渦巻や螺旋線、ジグザグ線もこれを描いた子どもが描くことによって一つの世界を歩み、描き終った時には満足感と成長感を持つ、ということが考えられる。錯画ばかりではなく、大きくなってからも絵の中に入り返しが見られ、又同じテーマのくり返しも見られる。Y(6才1ヶ月)は、スライドに示すように19枚にわたって人物画の中に髪に重点を置いてかいた。渦巻のくり返しは人間の髪の一部になってくる。Yはその頃、「あたし大きくなったらかんごふさんになるの。おから髪のを長く伸ばしたりね」と云っている。髪を伸

ばして看護婦さんになること即ち成長のイメージと、渦巻のくり返しとは重なり合っ一つの絵の中に出てきてる。このように絵と絵本とのくり返しは、リブれも成長のイメージへとつながって行くという意味を持つものである。又「こぶたの」とことに見られるようなゆるやかな回転は更に速度が落ちると回転のようには見えなくなり、この時イメージの上昇は生れりように見える。しかし日常生活の多くは、このゆるやかな回転であり、子どもの成長という長い時間経過の中で見る時、ゆるやかな回転のくり返しが見られ、やはり成長へとつながる事として意味深いことと思う。

表Ⅰ 「こぶたの」とことこ

	はじめ	出 発	高を三べんまわる	おわり
イメージの変化	「こぶたの」とことこ こぶたのイメージ	・めんとりさんが みえています。 ・いぬがたまたま みえています。 ・からすがかあ かあみえています。 言葉はくり返され るがゆっくりとし た回転中の点 となる。	「こぶたの」とことこ けました。こぶたの いっぺんひとまわ り。 くり返す。 同じ言葉でリズムカ ルに同じ行進のくり返 しかかかれる イメージの変化はな りがくり返すことが たのしみ。	すこしおやす みしたしまは う。
ホドグラフ				

表Ⅱ 「わたしとあそんで」

	はじめ	くり返し 1回～7回	とまる	くり返し 8回～14回	クライマックス	おわり
イメージの変化	朝日の中を かける。	動物との出会い バッタ、かえる、かめ、りす、かけす。 うさぎ、へび、の順に「わたしとあ そびましょ」をくり返す。 「わたし」の期待の表情と逃げられ た後姿とかくり返しのリズムに、 徐々にイメージの上昇を感じさせる。	たれもあそ んでくれない でこしかける。	動物物がまどつくる 先のくり返しと同じ順 だが速度は早くなり、 イメージは濃密となる。	しかの赤ちゃんが 出てきてペロリと抱 められる。 「ああ、わたしはうれ しい、とびまううれ しい」 イメージの上昇と喜び。	太陽に向って手を 上げてゆくうしろ姿
ホドグラフ						
絵の中の太陽	中央の円が太 く光が曲線	以下同じような人格的な太陽が 全ページにある				光の放射線が 特にこれだけ黄色 で強調される。

表Ⅲ 「三びきのやぎのがらがらどん」

	はじめ	一びき目のやぎ	二びき目のやぎ	三びき目のやぎ	おわり
イメージの変化	ふとろうとして やまへのぼって いく。 はじめから緊張 し、上昇の動きを みせる。	・小さい ・音 かたこと かたこと ・トロールに劣屈な態度 ・戦われない	・少し大きい ・音 かがたごと かがたごと ・少し態度が上向き	・もっと大きい ・かったんごうどん かったんごうどん ・トロールよりよになる	それからやまへのぼって いきました。
ホドグラフ					
絵の中の太陽	直線的な太陽 光の放射線が太			黄色い大気がとりまいてる。	垂直的な木々と光の放射線、全体が黄色